

【質問票】

評価対象施策 A「子ども・若者の居場所づくり」

	質 問	回 答
1	ふらっとなんぶの若者（18 歳から 39 歳まで）の利用者数について R3 から R7 まで知りたい。	別紙評価シートに記入。利用者登録により年齢が確認できた方の延べ人数になる。
2	野川のえんがわこまちの利用者数 4,133 人のうち、若者の数は何人か。	利用者数 4,133 人のうち 乳児親子が 177 人。 子ども（18 歳未満）が 3,779 人。 若者（18 歳以上 40 歳未満）177 人。
3	『狛江市若者支援ガイド』や『子育てガイドブック』はどのようなタイミングで誰に配布しているか。 ※居場所に行きづらい子に対して周知できているかを確認する観点	『狛江市若者支援ガイド』は、市内の中学 3 年生全員に卒業前に毎年配布している。また、子ども若者政策課で年 3 回開催している生きづらさを抱える若者に関する講座で、参加者に配布している。 『子育てガイドブック』は、毎年 7 月頃に市内の市立保育園、私立幼稚園、私立保育園、認証保育園、児童館、地域センター等で配布している。
4	居場所を探している人の中には直接相談に行けない人もいるかと思うが、そういった方に対するアプローチ方法について知りたい。自分に適した居場所を見つけるための支援体制について知りたい。	こまえ子育てねっとに、市内、東京都及び民間団体の相談窓口を掲載している。『狛江市若者支援ガイド』にも居場所の情報を掲載している。
5	子供関係の相談は、本人だけでなく親が同伴することもあると思うが、こま Y E L L , ソーシャルワーカー、教育支援センターなどは 17 時か長くても 18 時が終了時間になっており、通常フルタイム勤務の親では終了時間には間に合わない人が多いと感じる。若者相談事業のような相談窓口を土曜の午前など働く親が相談しやすい時間帯を選択肢にいれるなどは可能か。	野川のえんがわこまちでは、親に対する養育支援事業として、月・水・金曜日及び土曜日又は日曜日の週 4 日、午前 10 時～午後 5 時（土・日曜日は午後 4 時まで ※祝日・年末年始除く）に、子どもの養育に必要な知識や公的支援機関の情報提供、保護者に対しての養育相談を行っている。
6	市内どの地区にもティーンズルームのような「中高生以上が 18 時以降参加可能な居場所」を作ることは難しいか。	市内三カ所ある児童館・児童センターも 19 時まで開館しており、岩戸児童センター・和泉児童館は、18 時以降を中高生専用としている。こまっこ児童館は専用の中高生室を設置している。 今後増やす予定は現時点でなし。
7	大学生以降の若者が参画できるような居場所やサークル活動、地域活動の推進・企画（特に地域行事や自然に親しむなど）を増やすことがリピーターを増やすことにつながると思うがどうか。	ご指摘の通り、若者が参画できるような居場所等を増やすことは単なる利用を超えた「顔が見える関係」の構築につながる。このような関わりは、自己肯定感を高めるだけでなく、その場所を自分の拠点と感じて繰り返し訪れる動機付けとなり、結果としてリピーターの増加につながると考えられる。 子ども若者政策課では、二十歳を祝う会企画実行委員として参加してくれた方が、本実行委員をサポートする立場である青少年委員に就任してくれるケースが増えており、若者が参画できる機会の重要性を改めて認識している。

8	子どもの居場所を運営している団体に対して補助を行ったとのことだが、差し支えなければその6団体名を教えてください。	comarch、こども食堂 ひかりっこ、ごはん+居場所 おかえり、みんなかぞく、みんなの居場所、月末食堂の6団体となる。
9	今後空き家を活用した居場所を増やしていく予定はあるか。 ※小学校区に1つずつふらっとなんぶやえんがわこまち、ティーンズルームのような自由に利用できる居場所がないという観点から出た質問	現時点で予定なし。
10	プレーパークの参加人数が年々減っているが、原因はなにか。	・令和5年度から令和6年度にかけての主な減少要因は、乳幼児期親子の減（乳幼児1526名減、大人656名減）。保育園の待機児が減り、平日働く親が増え、在宅子育て世帯が減ったことが要因と考えられる。 ・令和6年度から令和7年度にかけての主な減少要因は、乳幼児期親子及び小学生の減（乳幼児864名減、大人844名減、小学生566名減）。小学生の減については、プレーワーカーの入れ替わりにより、小学生に人気の夏のイベントを縮小したこと、子どもたちに親しまれていたプレーワーカーが退職したことが要因と考えられる。
11	その他の指標のH「プレーパーク参加者数」は子どもの人数だけか。（親も含まれているのか。） ・もし含まれている場合、親と子どもの人数をR3からR7までそれぞれ知りたい。 ・含まれていない場合、親の人数がわかればR3からR7までの人数を知りたい。	別紙評価シートに記入
12	ティーンズルームの利用者数について、R7の実績を教えてください。	中高生が自由に利用できるため、利用者数はできていない。参考にサクセンカイギの参加者数は令和7年度115人となっている。
13	ティーンズルームの地域サポーターはどのように確保しているか。不足はないか。	地域サポーターは市内で子どもの居場所づくりに関わっている方に直接依頼をしている。定員3名のところ、3名を委嘱しており、不足はない。 ユースサポーターは、主に中高生と年齢に近い大学生等をお願いしており、近隣の大学（成城大学・専修大学）に協力いただき周知及び募集をしているほか、プレーパークのプレーワーカー、令和8年度に大学に進学した元ティーンズルーム利用者のサポーターにも委嘱している。 現状は定員10名のところ、9名を委嘱しており1名欠員となっている。 シフトについては、スケジュール上サポーターがいない時間帯が生じている。
14	「児童館関係費」と「学童保育所・小学生クラブ・こどもクラブ」の成果について	児童館関係費の成果について別紙のとおり修正している。